

特 殊 報

各関係機関の長 殿

福岡県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について（送付）

このことについて、平成14年度病虫害発生予察特殊報第2号を発表したので送付します。

平成14年度病虫害発生予察特殊報第2号

- 1 対象作物 カキ、カンキツ
- 2 病虫害名 ミナミトゲヘリカメムシ(Paradasynus spinosus Hsiao)
- 3 発生地域 県北部及び県中央部
- 4 特殊報の内容
 - (1) 初発生確認の経緯
平成12年10月に県北部のカンキツ園において、本種による加害と平成14年4月に同地域内の他のカンキツ園で本種の寄生が、病虫害防除員の中村虎太氏によって確認された。
平成14年5月下旬に普及センターから県中央部のカキほ場において、従来のカメムシと異なる被害が発生しているとの情報があった。
6月上旬に現地ほ場を調査した結果、3市町5ほ場で同様の被害を確認し、2ほ場で本県のカキでは加害が未確認であったミナミトゲヘリカメムシ成虫と卵も採集された。
試験場内の健全なカキの幼果に本種成虫を接種したところ、現地と同様の被害が再現された。
 - (2) カキおよびカンキツでの被害状況
カキでは加害部位が半透明になり、後に大きく凹んでその部位が黒褐色となり落果するが、一部の被害果は落果せずに樹上に残る。加害部位は口針鞘が残り、加害部分を剥皮すると果肉は褐変しているが、スポンジ状ではなく、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ及びクサギカメムシの加害と明らかに異なる。
カンキツでは果実外観の被害は不明瞭であるが、落果する。

(3) 形態・生態等

体長 16 ~ 23 mm でオオクモヘリカメムシに似ているが、褐色味が強く、前胸背の側角が棘状となり、鋭く前側方に突出している。

南方系の種でカンキツの被害が確認されている。寄生植物はシロモジ、クスノキなどのクスノキ科植物で、これまで三重県、和歌山県、高知県、大分県、鹿児島県、沖縄県で発見されている（安永ら、1993）。

5 防除上注意すべき事項

(1) 4 月からみられたので、県内で越冬していると考えられるが、越冬場所、寄主植物などは明らかでない。また、カキでは従来の果樹カメムシ類（チャパネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）が加害する時期（通常 7 月）より早いため、注意が必要である。

(2) 薬剤感受性のデータはないが、当面の防除は、14 年度果樹病虫害防除基準を参考に、果樹カメムシ類に対する防除薬剤で実施する。

6 参考文献

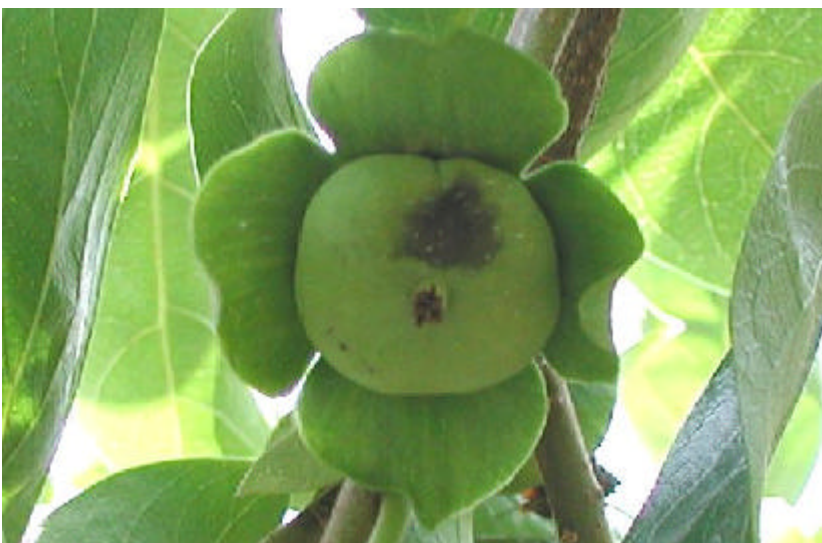
安永智秀：日本原色カメムシ図鑑第 1 巻（1993 / 全国農村教育協会発行）



カンキツを加害中の
ミナミトゲヘリカメムシ



カキを加害中の
ミナミトゲヘリカメムシ



ミナミトゲヘリカメムシに
加害されたカキの被害果